

## 週報

## 感染性胃腸炎(腸管病原菌)検出

センター受託検査分より

検出菌ウイルス	平成28年												平成29年																			
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月 ~7日	5月 ~14日	5月 ~21日	5月 ~28日	6月 ~4日	6月 ~11日	6月 ~18日	6月 ~25日	7月 ~2日	7月 ~9日	7月 ~16日	7月 ~23日	7月 ~30日	8月 ~6日	8月 ~13日	8月 ~20日
カンピロバクター	72	56	111	153	116	189	214	150	101	118	66	84	61	68	80	122	9	30	19	25	24	34	31	29	24	26	45	20	27	18	17	22
病原性大腸菌	140	146	163	167	150	157	240	182	166	227	180	147	107	105	89	113	6	7	37	14	27	60	26	22	30	53	39	43	41	27	44 (49)	26
腸管出血性大腸菌	0	0	0	0	0	1	3	1	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
サルモネラ	12	4	2	8	12	4	19	21	12	16	4	6	0	1	7	11	2	2	3	3	4	2	3	4	3	2	6	2	5	12	4 (6)	4
黄色ブドウ球菌 MSSA	23	20	25	14	19	32	14	24	23	27	8	15	6	11	12	15	2	5	1	1	8	0	9	4	7	6	6	4	9	2	5	4
黄色ブドウ球菌 MRSA	11	11	16	21	20	27	24	19	19	18	14	20	16	19	13	17	5	4	3	3	5	3	11	4	6	10	5	3	3	5	2	3
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	1	0	3	3	1	9	10	9	4	2	2	0	2	1	3	0	0	0	0	2	1	1	1	0	0	0	5	4	3	1 (2)	1
ロタウイルス	4	19	29	24	29	1	0	0	0	1	0	1	1	0	1	6	0	1	3	2	1	0	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0
アデノウイルス	2	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
ノロウイルス	20	20	5	9	2	2	5	0	0	0	0	21	7	4	8	6	0	2	7	2	4	2	1	6	2	4	1	1	0	0	0	0

\* ( ) は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

\*先週のその他の1件増は、アエロモナスでした。

\*その他の1件は、プレジオモナスでした。

### 広島県感染症発生動向週報

平成29年第33週(8月14日~8月20日)

#### 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	6	結核	6		2	2			1	1
三類	7	腸管出血性大腸菌感染症	7		1	5				1
四類	8	つつが虫病	1			1				
		日本紅斑熱	4			2			1	1
		マラリア	1					1		
		レジオネラ症	2			1		1		
五類全数	1	梅毒	1						1	

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市 西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町  
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町 北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

広島県感染症情報センター 提供

## 定点・全数把握疾患週報【広島市】(第33週 8/14～8/20)

広島市感染症対策協議会/広島市感染症情報センター 提供

## 1. RSウイルス感染症

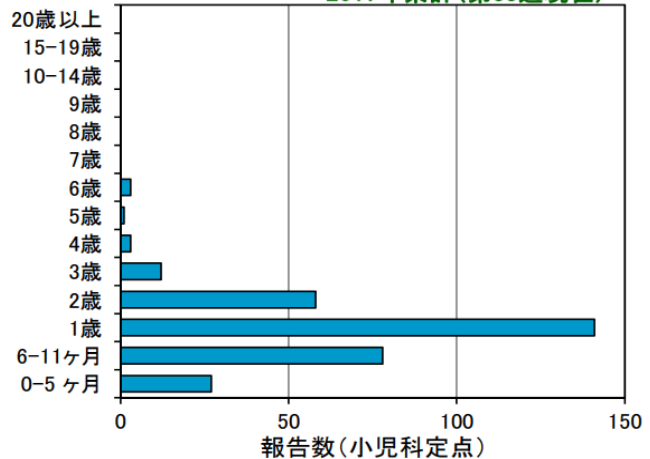
定点当たり1.42人の報告があり、例年同時期と比べて多くなっています。

2017年第1～33週までの累積報告数(323件)の年齢階層別割合をみると、1歳(43.7%)、0歳(32.5%)、2歳(18.0%)の順に多く、2歳以下が全体の94.1%を占めています。RSウイルス感染症は、年齢が低いほど重症化しやすいため、注意が必要です。

咳エチケットや手洗いの励行、おもちゃやてすりなどはこまめに消毒するなど感染予防対策を徹底しましょう。

第33週はお盆期間中のため、医療機関の休診の影響により患者報告数が少なくなっている可能性があります。そのため、「定点把握感染症報告状況(週報対象)」(下表)の発生記号の表示を行っていません。

## 小児科定点からのRSウイルス感染症 年齢階層別報告数 2017年累計(第33週現在)



## ■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号
フィレン	インフルエンザ	1	0.03	0.01		小児科	流行性耳下腺炎	1	0.04	0.45	
小児科	咽頭結膜熱	6	0.25	0.46		眼科	RSウイルス感染症	34	1.42	0.36	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	34	1.42	0.71			急性出血性結膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	79	3.29	2.38			流行性角結膜炎	7	0.88	0.63	
	水痘	15	0.63	0.37		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	73	3.04	1.10			無菌性髄膜炎	-	-	0.23	
	伝染性紅斑	3	0.13	0.07			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.34	
	突発性発しん	10	0.42	0.30			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	百日咳	-	-	0.01			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	14	0.58	0.70							

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

## ■ 全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
4	マラリア	1	1	男性(40歳代)・推定感染地域: 国外
4	レジオネラ症	1	15	男性(70歳代)・市外

## ■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
手足口病	発熱(39.9) 丘疹 水疱 咽頭炎 リンパ節腫脹 熱性痙攣	0	男	2017/07/07	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA6型
流行性角結膜炎	結膜炎 瞼結膜の発赤・混濁・濾胞	52	男	2017/07/02	結膜擦過物	アデノウイルス4型
無菌性髄膜炎	歩行障害 髄膜炎	1	男	2017/06/27	咽頭拭い液 糞便 咽頭拭い液 鼻汁 咽頭拭い液 尿	コクサッキーウイルスA6型 ライノウイルス サイトメガロウイルス
その他の呼吸器疾患	発熱(38.7) 鼻炎	1	男	2017/07/11	咽頭拭い液	ライノウイルス

\* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載